

平成 19 年 3 月期 第 3 四半期財務・業績の概況（連結）

平成 19 年 2 月 15 日

上場会社 はるやま商事株式会社

（コード番号：7416 東証第1部）

（URL <http://www.haruyama.co.jp/>）

問合せ先 代表者役職・氏名 代表取締役社長 治山正史

T E L : (086)226-7101

責任者役職・氏名 執行役員 浅沼 明

1. 四半期財務情報の作成等に係る事項

会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 有

・たな卸資産については、実地たな卸を行わず、帳簿たな卸により算定しております。

・税金費用については、簡便法により計算しております。

最近会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 無

連結及び持分法の適用範囲の異動の有無 : 有

・当連結会計年度より、子会社3社を連結対象会社として連結財務諸表を作成しております。

（連結）新規3社 ... 日本フィナンシャルサービス株式会社、株式会社ミック、株式会社H・M

2. 平成 19 年 3 月期第 3 四半期財務・業績の概況（平成 18 年 4 月 1 日～平成 18 年 12 月 31 日）

(1) 経営成績（連結）の進捗状況

（百万円未満切捨）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期（当期）純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
19年3月期第3四半期	40,610	()	751	()	846	()	251	()
18年3月期第3四半期		()		()		()		()
（参考）18年3月期								

	1株当たり四半期（当期）純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益
	円 銭	円 銭
19年3月期第3四半期	15 33	
18年3月期第3四半期		
（参考）18年3月期		

（注） 当四半期より連結財務諸表の開示を行っているため、前年同四半期実績、前期末実績及び増減率につきましては記載しておりません。

平成19年3月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

[経営成績の進捗状況に関する定性的情報等]

当第3四半期におけるわが国経済は、企業収益が引き続き好調に推移しておりますが、期待される個人消費の回復は本格的には至らず、また高気温の影響で秋冬物衣料が伸び悩むなど、厳しい状況が続きました。

このような環境のもとで、当社グループは積極的な出店を続けるとともに、CS運動（顧客満足運動）の浸透や人材の育成、教育に注力するなど、お客様のご意見ご要望を最優先に考え、適時に顧客サービスに反映していく組織づくりを行ってまいりました。

主力の紳士服販売事業では、株式会社マツヤより紳士服販売事業の譲受けを決議し、平成18年10月より営業を開始するとともに、16店舗の新規出店及び既存店3店舗の移転を行いました。また、「新アイススーツ」や「ウォームバックスタイルスーツ」など、クールピズやウォームピズに対応する商品の発売や、新素材「ソロテックス」を採用した「しわ回復スーツ」の開発など、お客様にご満足い

ただける商品の提案に努めました。その結果、クールビズの影響もあり、ワイシャツなどの軽衣料の売上は好調に推移いたしましたが、冷夏・暖冬などの天候不順で重衣料の売れ行きが伸び悩み、紳士服売上全体では前年対比0.4%の減少となりました。

カード事業につきましては、紳士服販売事業における多様化した顧客ニーズに的確な対応が可能なカードの発行を推進し、同事業の営業推進部門を強化・支援することを主たる目的として事業活動を展開しております。当第3四半期におきましては、紳士服販売事業の顧客囲い込みと事業基盤構築のために「NIFISカード」の会員募集に力を入れると同時に、「紳士服」周辺の生活に密着した金融サービスを提供し、平成18年12月末現在の有効会員数は122千人、営業貸付金残高は417百万円となりました。また、公共料金や携帯電話料金のカード決済推進キャンペーンや初利用キャンペーン、請求時割引等の施策を実施し、会員への利用促進を図るとともに、効率的な広告宣伝など経費の圧縮に努めたことにより、営業損益は予想通り推移いたしました。

これらの結果、当第3四半期の連結業績は、売上高406億1千万円、営業利益7億5千1百万円、経常利益8億4千6百万円となりましたが、減損損失を7億3千2百万円計上したほか、店舗改装等による固定資産除売却損が2億9千7百万円あったことなどにより、2億5千1百万円の第3四半期純損失となりました。

(2) 財政状態の変動状況

(百万円未満切捨)

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
19年3月期第3四半期	66,396	35,817	53.9	2,188 52
18年3月期第3四半期				
(参考)18年3月期				

(注) 当四半期より連結財務諸表の開示を行っているため、前年同四半期実績及前期末実績につきましては記載しておりません。

[財政状態の変動状況に関する定性的情報等]

当第3四半期における総資産は663億9千6百万円となりました。流動資産は280億9百万円、固定資産は383億8千7百万円となりました。また、流動負債は228億3千2百万円、固定負債は77億4千6百万円となり、負債合計は305億7千9百万円となりました。純資産合計は358億1千7百万円となり、この結果、自己資本比率は53.9%となりました。

[参考]平成19年3月期の業績予想(平成18年4月1日～平成19年3月31日)

当社においては、事業の性質上、第4四半期(1月～3月)の売上高、利益が他の四半期に比べて大きいという季節的な要因があります。

	売上高	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円
通 期	59,000	3,723	1,140

(参考) 1株当たり予想当期純利益(通期) 69円66銭

上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後さまざまな要因によって異なる結果となる可能性があります。

1. (要約) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	当四半期 (平成 19 年 3 月期第 3 四半期末)	
	金額	構成比
(資産の部)		%
流動資産		
現金及び預金	5,601	
受取手形及び売掛金	58	
営業貸付金	417	
たな卸資産	16,970	
その他	4,961	
貸倒引当金	0	
流動資産合計	28,009	42.2
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	11,542	
土地	14,107	
建設仮勘定	59	
その他	996	
有形固定資産合計	26,705	40.2
無形固定資産	145	0.2
投資その他の資産		
差入保証金	5,992	
その他	5,698	
貸倒引当金	154	
投資その他の資産合計	11,536	17.4
固定資産合計	38,387	57.8
資産合計	66,396	100.0

(単位：百万円)

科目	当四半期 (平成19年3月期第3四半期末)	
	金額	構成比
(負債の部)		%
流動負債		
支払手形及び買掛金	9,067	
短期借入金	6,050	
1年内返済予定の長期借入金	2,230	
未払金	3,658	
ポイント引当金	474	
賞与引当金	75	
その他	1,277	
流動負債合計	22,832	34.4
固定負債		
長期借入金	5,723	
退職給付引当金	1,119	
役員退職慰労引当金	639	
預り保証金	198	
その他	65	
固定負債合計	7,746	11.7
負債合計	30,579	46.1
(純資産の部)		
株主資本		
資本金	3,991	
資本剰余金	3,864	
利益剰余金	28,122	
自己株式	167	
株主資本合計	35,810	53.9
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	5	
繰延ヘッジ利益	0	
評価・換算差額等合	6	0.0
純資産合計	35,817	53.9
負債・純資産合計	66,396	100.0

(注) 当連結会計年度より連結貸借対照表を作成しているため、前年同四半期及び前連結会計年度については記載しておりません。

2. (要約) 四半期連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	当四半期 (平成 19 年 3 月期第 3 四半期)	
	金額	百分比
		%
売上高	40,610	100.0
売上原価	18,704	46.1
売上総利益	21,905	53.9
販売費及び一般管理費	21,154	52.0
営業利益	751	1.9
営業外収益	272	0.6
営業外費用	177	0.4
経常利益	846	2.1
特別利益	10	0.0
特別損失	1,063	2.6
税金等調整前四半期純損失	207	0.5
税金費用	49	0.1
少数株主損失	4	0.0
四半期純損失	251	0.6

(注) 当連結会計年度より連結損益計算書を作成しているため、前年同四半期及び前連結会計年度については記載しておりません。